



平城宮跡でボランティア活動をしている私たちの会報紙で

天平のひろば

2025 年 7 月発行

95 号

☎/Fax 0742-34-7713

e-mail npoheijyou@yahoo.co.jp

http://www.heijyonet.nara.jp

NPO法人平城宮跡サポートネットワーク（NPO平城宮跡）

〒630-8577 奈良市二条町 2-9-1 奈良文化財研究所内

第 24 回通常総会を開催

5 月 24 日第 24 回通常総会で令和 7 年度事業計画等が承認。続いて関係者出席のもと交流会を開催。

1. 活動の基本方針

当会は平城宮跡の歴史的・文化的価値の維持・保全に寄与することを事業の方向性として活動して参ります。その上で、7 年前に開園した「平城宮跡歴史公園」の利活用に積極的に対応するため、「歴史公園ガイド」や「平城京歴史講座」に取り組み、「朱雀門ひろば」を起点に“奈良時代を今に感じる”諸活動を引き続き進めます。特に、平城宮跡における最初の本簡が発見された日を「本簡の日」と提唱し、これを啓発する活動と、近年、発見された「かりうち」の普及という文化・ガイド事業活動に取り組みます。平城宮跡歴史文化講座は、19 年前にスタートし本年 5 月に 53 回目となります。今後も市民に愛される講座を開催して参ります。また、「宮跡を訪れる人々に最適空間を提供する」ため、環境保全活動にも一層積極的に推進して参ります。更に、「天平のひろば」の紙面の充実を図ります。



奈良文化財研究所、平城宮跡管理センターはじめ関連団体と協働して事業を推進し、平城宮跡の保存と利活用に努めて参ります。そして、これまで 23 年間の活動成果を踏まえ、新たな時代に対応していける NPO 活動に取り組んで参ります。

2. 今年度の主な事業計画

(1) NPO 平城宮跡会員の増加と、会の経営基盤の強化に努めます。NPO 会員の新規加入の促進に努めるとともに事業運営の効率化を推進します。

(2) 宮跡を最適空間に創出するため、環境保全活動に一層取り組みます。クリーン活動、緑の保全部

会活動、安全安心活動に加え、桜見守り活動にも取り組みます。

(3) 組織の充実と人材の確保に努めます。NPO 関連事業の拡大・多様化に積極的に取り組むための組織と人づくりに努めます。

(4) 関連団体との協働事業の推進を図ります。奈良文化財研究所を始め、平城宮跡管理センターなどと協働して、教育活動やガイド、文化事業に取り組み、平城宮跡の歴史的・文化的価値の情報発信に努めます。

(5) 広報活動を充実強化します。「天平のひろば」の紙面を充実し、ホームページを拡充して、積極的に情報発信します。

(6) 期待される NPO 活動の在り方について検討します。NPO 平城宮跡 23 年の活動成果を踏まえ、奈良文化財研究所の指導を得て進めます。（編集部）

平城京かるた贈呈式

5 月 26 日奈良市役所で岡村印刷工業(株)、奈良市教育委員会、NPO 平城宮跡関係者出席のもと、平城京かるた贈呈式を執り行いました。2005 年奈文研監修。NPO 平城宮跡は子供たちが平城京の歴史が学べるようかるたを製作。2008 年百人一首と同サイズで平城宮跡資料館、奈良博、飛鳥資料館等で販売していましたが、このたび奈良市に平城京かるた 224 点を寄贈することとなりました。（編集部）



左から垣見弘明奈良市教育委員会教育部長、岡村匡倫岡村印刷工業(株)代表取締役、牧野浩奈良市教育委員会教育部次長、鈴木浩 NPO 平城宮跡サポートネットワーク理事長

古代の対外戦争(その1)
-藤原仲麻呂の新羅征討計画-

寺崎保広

(奈良大学名誉教授)



5月24日第53回平城宮跡歴史文化講座が平城宮跡資料館講堂で158名を前に「古代の対外戦争(その1) - 藤原仲麻呂の新羅征討計画-」と題し講演。

今回の主役、藤原仲麻呂は南家の生まれ、才気に溢れ、官人としての能力も抜群、順調に出世し749年には政府中枢「紫微令」のポストに就く。さらに身内の大炊王が、757年には孝謙の後、淳仁天皇となり、権力基盤が確立する。

663年の白村江の戦いで日本が唐・新羅連合軍に大敗の後、朝鮮半島の支配を巡り、唐と新羅は対立。幸い日本は両国から侵攻を受ける事態を免れ、新羅は背後の日本に接近、洪々朝貢する形をとった。

8世紀に入ると唐と新羅の間に「渤海」国が興り、727年には、新羅の背後の日本に接近、使者が来訪。この頃から、東アジアの外交は4か国で目まぐるしく展開する。唐は半島から手を引き、唐・新羅の関係は改善。新羅は日本への屈辱的な姿勢を改めたいと高圧的に迫る、それを無礼だとして日本は使者を追い返すといった事案が頻発する。唐は新羅の後ろ盾となり、日本・渤海はそれに備えるという構図となった。国内では新羅征討の声が高まり、732年には各地に戦争準備のための「節度使」を設置、軍船の建造も開始。735・736年には、双方が遣使を追い返し、一触即発の状況に。しかし、この時は天然痘の大流行、要人が相次いで死亡するなど、大混乱が発生、新羅征討は見送られた。その後、しばらく比較的平穏に推移していたが、752年頃から新羅王子である新羅使を追い返すなど、トラブルが頻発、再び関係が悪化。758年遣渤海使小野田守が渤海使を伴って帰国。755年唐で勃発した「安史の乱」の情報をもたらし、唐から渤海に援軍要請があった事なども報告。唐が新羅の後ろ盾どころでないこの時期に、共に新羅を攻めようといった話も出たか、急速に新羅征討の気運が高まる。翌759年、情報収集等のため迎入唐大使を来日中の渤海使とともに、渤海

経由で唐へ送り出す。仲麻呂主導で3年後に新羅征討を決行するとして戦争準備に着手。大宰府に「行軍式」を造らせる、征討のため船500艘を造らせる、新羅人で希望する者は帰国させる、といった施策を進める。761年11月には東海・南海・西海道節度使を任命。大規模な軍事演習も行い、762年には武器・武具の増産・備蓄を大宰府などに指示、秋には伊勢大神宮、香椎廟に奉幣するなど、征討決行目前の様相を呈する。763年正月、渤海使が唐の情報をもたらす。唐が巻き返し反乱軍は弱体化、渤海の処遇を格上げするなど、新羅征討の前提条件が崩れた事を伝えたかも知れない。

これ以降、『続日本紀』から新羅征討の記事が途絶え、旱害、疫病、飢饉の記事が多くなり、8月には山陽・南海道の節度使が(翌年には東海道も)廃止される。光明皇太后の没後、政界で孝謙上皇・道鏡と淳仁天皇・仲麻呂の両陣営の対立が激化するのもこの時期である。こうして藤原仲麻呂の新羅征討計画は沙汰止みとなった。(文化・ガイド部会)

平城宮跡歴史文化講座(次回)

11月16日 渡辺晃宏(奈良大学教授)

「古代の対外戦争(その2) - 対蝦夷戦争-」



新役員の紹介

理事に選任いただきました柴田茂です。
朱雀門、第一次大極殿、大極門、東楼と

復原工事が順次進み、奈良時代へと一歩ずつ甦る平城宮跡歴史公園が、来場者に驚嘆と感慨をもって記憶に留めていただくよう、環境保全活動にも頑張っており取り組めます。また理事としてNPO平城宮跡の活動に、お役に立てるよう頑張りたいと思っています。

第24回通常総会後の交流会



奈文研加藤真二副所長の代表スピーチ

大好評 平城京 歴史講座

宇野隆志さん(檀考研主任研究員)が、5月10日139名を前に「興福寺の復興を支えた遺跡」と題し講演。



奈良市登大路(婦人会館)瓦窯跡の再発掘調査が行われ、今回その上層に子院跡と3層の瓦窯跡が確認された。最上層の第1面は

13世紀以降であることと石

組遺構、道路遺構から興福寺の子院、第2面から穴や排水溝などを発掘、12世紀の遺構で南都焼討後復興のための瓦窯跡、第3面は11世紀の遺構で平安中期の多くの焼失した堂宇の再建の瓦窯跡、第4面は、8世紀後半から10世紀まで使用された瓦窯跡とそれぞれ推定。瓦窯は傾斜を利用し下部に焚口を作ったものから、平地に畦を作った焼成室に焚口、燃焼室を掘った平窯に変遷していく。

興福寺創建当初の瓦窯は梅谷(木津川市)荒地と傾斜地であったが、登大路は境内に作られた平窯である。時代が進むにつれて焚口、燃焼室と焼成室の高低差が減少している。興福寺の堂宇の維持だけでなく何度も起きた火災や戦火からの復興に多くの瓦を製造したと推定される。(編集部)

江浦洋さん(元興寺文化財研究所研究員)が6月14日104名を前に「二つの小治田寺―奥山廃寺と大后寺」と題し講演。



今は寺名を失った2つの「小治田寺」。その存在が推定されていた場所が発掘された。飛鳥小治田寺の奥山廃寺は発掘調査の結果、塔と金堂が南北に並ぶ四天

王寺式伽藍配置である事が判明。

寺域の北東部の井戸からは「少治田寺」と書かれた平安時代の土師器杯が出土した。この寺は7世紀前半に金堂、後半に塔が建立され、平城遷都による移転後も旧寺は古京に残ったようだ。この寺からほぼ真北23km離れた所に位置したと考えられるのが平城小治田寺の平城小治田寺の大后寺である。調査地は一条通りの北側で掘立柱穴や側溝、ヤイ古墳

などを検出。また出土した円面硯や瓦片、大型埴、漆器、温石などは寺との関連が考えられ、新種の軒丸瓦、軒平瓦や「寺」や「大」と書かれた土器の出土から瓦葺きの大規模な寺院の存在が想定される。

平安時代の『小右記』には「大后寺」の記述があり、この寺が春日詣の主要ルートに位置していた事を思うと、吉川真司博士が比定する平城小治田寺「大后寺」である可能性が高い。(編集部)

山口等悟さん(奈良市埋蔵文化財調査センター学芸員)が7月12日102名を前に「平城京内の出先機関―播磨国調邸―平城京左京五条四坊八坪の調査」と題し、講演。



播磨国調邸(平城京左京五条四坊八坪(JR奈良駅南西側))を発掘調査した。文献資料にはないが発掘された瓦や土器が、播磨国のものと特徴が一致し、播磨国調邸(平城京の出張所)と推定された。八坪の内部は坪内道路で区画されている。

中央南区画は、前殿、後殿、脇殿の大型建物、ヒノキ材で四分割円形丸太刳抜型の井戸枠や呪術用と思われる、土師器の壺や皿を埋める埋納坑を発掘、井戸の底から、ガラス玉や和同開珎も出土した。調邸の中心施設と推定される。北東区画は東四坊坊間路と西側溝が発掘された。建物配置、総柱建物、埋甕遺構や井戸から食料保管施設。

南東区画は、築地雨落溝に井戸と細長い土坑が発見され平城宮の馬寮に似ている。馬関連遺構でないか。北西区画は礎石建物や総柱建物があり、倉庫群と推定され建物は恭仁京遷都後に建て替えられているが、八坪九坪と一体で播磨国が使用している。

九坪は今後調査が進められる。(編集部)

次回の平城京 歴史講座(いざない館)

- 8月9日: 井上さやか(万葉文化館係長)「宮都を詠むということ―飛鳥・藤原・平城―」
9月13日: 中東洋行(吉野歴史資料館学芸職員)「壬申の乱挙兵の地 吉野宮を求めて」
10月11日: 佐々田悠(正倉院事務所保存室長)(テーマ未定)

奈良文化財研究所 新天平人

西田 紀子

文化遺産部建造物遺構研究室上席研究員



1976 年三重県松阪市生まれ。幼少期に両親と京都、奈良を訪れ清水寺などの神社建築に興味を持ち、1999 年 3 月東京大学工学部建築学科卒業、2001 年同大

学院修士修了、同年 4 月同大学院博士進学、2002 年 4 月奈良文化財研究所採用、都城発掘調査部、飛鳥資料館学芸室を経て現在に至っています。

西田さんは飛鳥の民家・風景をこよなく愛し、調査研究にも取り組んできました。飛鳥資料館学芸室在任中は、飛鳥資料館図録『あすかの原風景』を発刊、また「ブラタモリ」に出演するなど飛鳥を紹介してきました。蘇我氏邸宅跡とされる甘樫丘の発掘調査が特に印象に残っているそうです。

平城に戻って来てから携わった西大寺弥勒金堂発掘時には地域住民向けの遺跡見学を実施し、遺跡現場の説明に興味を示す子ども達を見て、地域の人々との遺跡の共有の大切さを実感しました。

また、長年の飛鳥とのつながりから飛鳥坐神社に伝わる御神鏡を奈良博と協力して調査し、御神鏡は日本最大で大変貴重なものであることが判明しました。

現在は、建造物遺構研究室で大極殿院の復原研究のマネジメントや成果の発信などを担っています。東楼飾金具の復元では、大官大寺出土の金具を参考に実際に職人さんの制作現場に立ち会いました。古代さながらの輝きに感動しました。

村の人々の日々の営みが景観を育む飛鳥。近鉄電車の車窓から多くの人が眺める平城宮跡。文化財の調査研究にあたっては、地域の人々と積極的に関わることを大切にしていると話されました。

今は、明日香村や平城宮跡周辺の集落調査を進めておられるそうです。NPO 平城宮跡の活動は、文化財の保存と活用の重要な発信源で今後の継承・発展を期待していました。最後に飛鳥資料館在職中で知り得た「明日香の魅力」をいざない館で伺いたい旨、お願いしておきました。

(編集部)

平城宮跡を“楽しむ”人たち

「古代瓦の拓本づくり」と「かりうち」を実施

5 月 3 日～5 日 いざない館で「古代瓦の拓本づくり」(59 名)と「古代の盤上遊戯かりうち体験」(延 127 名)のイベントを開催しました。スタッフ(3 日間延 26 名)は、手製の古代衣装を纏い、雰囲気が盛り上がり大好評でした。(文化・ガイド部会)



いざない館で古代の盤上遊戯かりうち



いざない館で古代瓦の拓本づくり

新規会員の紹介/募集

＊新規会員の紹介＊ (7 月 1 日現在)

上田一郎さん、竹中久善さんが入会しました。

＊新規会員の募集＊〈活動支援/入会のお申し込み〉

❖個人会員が支援/活動 年会費 3,000 円

❖法人会員が支援/活動 年会費 10,000 円

◆お申込み：☎&ファックス 0742-34-7713

編集後記

今夏も猛暑が予想されています。

日頃から体を動かし、暑さに負けない体づくりを心がけてください。そして、こまめに水分を補給し、暑さと上手に付き合って、この夏を乗り切りましょう。

(Y.S)